

# 本寺の四季

中世の風景 — 未来への遺産 —



い

本寺地区中屋敷のシダレ桜

国史跡・重要文化的景観  
「骨寺村荘園遺跡」ガイド

# ゆつたりとした ひととき

このけしきは  
むがしから  
かわらねーな

## 私

たちのふるさと本寺は、八百年  
以上も昔、奥州藤原氏の時代に  
中尊寺経蔵別当領だった村で、骨寺村  
と呼ばれた荘園でした。

私たちは、今まで、身の回りにある景  
色や生活について、特別な意識を持つて  
暮らしてきたわけではありません。屋  
敷と林と水田は隣り合わせにあり、い  
ろいろなことを教えてくれる祖父や祖  
母がいて、地域の行事には沢山の人が  
集まります。道端には草花が咲き、時  
には力モシカや熊が里に來たりします。

今、こつした本寺のような景色や生  
活を守ることが大切だと注目されてい  
ます。

ここに来ていただければ、ゆつくり流  
れる時間のなかで、幸せな気分になれ  
ると思います。



陸奥国骨寺村絵図（中尊寺大長寿院蔵）

## 中世の風景が残る場所——本寺

骨寺村については、鎌倉時代の絵図が二枚、平泉の中尊寺に残されていて、国の重要文化財に指定されています。その絵図に描かれている村の姿は、現在の本寺地区の景観ときわめてよく一致しており、中世の景観が良好に保たれています。

平成十七年、絵図からわかる場所及び発掘調査で確認された九ヶ所が「骨寺村荘園遺跡」として国史跡に指定され、翌年には国の重要文化的景観に選定されました。



ぼくは  
大好きだワン

ろ

い～ぬ 写真の風景は、裏表紙「骨寺村荘園遺跡マップ」で確認することができます。ぜひ、ガイドブックと一緒に出かけください。

# 春 の本寺





## あぜ道

本寺では、春になると、さくらやタンポポ、カタクリが咲きます。そして、保育園の近くでは、モリアオガエルを見かける

こともあります。大きな街から来た人が

「空気がきれいだね」と言っていました。

自然がいっぱいあるのは、本寺のいいところだと思っています。

春になると、おじいちゃんやあばあちゃんといっしょに、

山へタラの芽などの山菜を採りに行きます。

ヨモギを採ってきて、よもぎもちを食べるのが

春のたのしみです。ぼくは、小学生になつてから、

田植えのお手伝いをしています。クネクネした

あぜ道を通つて田を田んぼに持つて行くのです。

栗駒山のきれいな姿を見ながら、田植えをしています。



新緑の大師堂



伝ミタケ堂付近の桜



新緑の駒形根神社

# 春 の本寺



本寺の散歩中に、  
出会ったシュレー  
ゲルアオガエル。  
実は日本では希少  
種とされるカエル  
です。





春の恒例行事となった「お田<sup>だ</sup>植え祭り」あとの昼食交流会。青空の下、一緒に汗を流したあとの地元料理は格別!



田植え後の「あと植え」  
真っ最中。どこの田んぼ  
も忙しそう。

本寺の春は  
賑やかじゃの～



# 夏の の本寺

## 川遊び

夏の本寺は「水がきれい、で  
よかつた」と思うことがいっぱい  
あります。校舎わきの小川や

田んぼの水路で、小さな魚をつかまえて

遊んだり、駒形根神社そばの川で遊びます。

川遊びは、学校のみんなに人気があります。

授業で川たんけんに出かけることもあるのです。

サンショウウオやカジガいました。

また、本寺では、チョウチョやトンボ、

カブトムシを獲ったりすることもできます。

歩いて、カモシカやクマ、キツネやタヌキを

見かけることもあるのです。

星もきれいに見えます。それから、夏に

駒形根神社のかねがあるところから、

田んぼを見ると、景色がきれいで、

みんなに見てほしいです。







### 「田の草取り」

美味しいお米ができるまでには、一手間も二手間もかけるんです。



### 「味が沢」

昔から農作物を作るのに重要な水でした。



**ほ** 駒形根神社付近から見た本寺。  
風でそよそよ稲が揺れます。



本寺にはカジカなどの小さな魚が泳いでいます。そーつと覗いて見てください。

# 夏の の本寺

オタマジャクシの  
まま水中で越冬す  
ることが多い、珍  
しいツチガエルに  
も出会えるかも?!



梅木田遺跡前のあ  
ぜ道を歩くカモシカ



ツチガエル

本寺の里山は、昔ながらの土のあぜ道や水路が多くあることにより、豊かな生態系が維持されています。また、外来種も少なく、カキツバタやカモシカなど希少種とされている動植物にとっても、重要な生息環境です。



カキツバタ



夏の風は心が  
洗われるようじゃ



リンドウ



ブルーベリー



ドジョウ

「秋の木寺」を語る会

# 秋の木寺



## とりまい 稲舞

秋になると、木寺は

稲刈りで忙しくなります。

僕は、かまて稲を刈るお手伝いをします。

穫れたばかりのお米はおいしいので、

がんばれます。お米を穫ったあと、ワラを

なわないに使います。5年生と6年生は、

お年寄りになわないを教えてもらいます。

秋には、神楽の「とりまい稲舞」を見ます。

動きに迫力があって、すごくカッコいいので、

早く中学生になって習いたいと思っています。

また、秋になると、紅葉がとてもきれいで、

学校の帰り道にドングリが落ちていっているの

を見かけます。おばあちゃんがいっぱい

つけものをつけはじめるころなので、

それも楽しみにしながら帰ります。







「豆引き」  
ビール瓶で叩い  
て豆殻から豆を  
取り出します。



骨寺村莊園オーナーさん達との稲刈り祭。

と



# 秋 の本寺

「朝の光とほんによう」  
刈られた稲を天日で乾  
燥させます。

稲を刈った後の  
田んぼで稲わら  
を焼く。





春と秋のお彼岸の中日には、栗駒山（須川岳）の山頂に日が沈みます。



慈恵塚に登る道から眺めると黄金に輝く稲穂が見えます。



実りの秋は  
一番活気づく季節

# 冬の 本寺



## 正月行事

私は、雪が降ったあとの本寺全体の

風景がとてもいいと思います。

白い栗駒山は、なぜかいつそうきれいに感じます。

そして、大晦日になると、本寺では年越し行事を

行います。神社からもらってきたごへいそくで、

うちのおじいさんは、家のお部屋それぞれをきよめます。

駒形根神社に縄を納めに行く家もあるそうです。

元朝参りには、たくさんの方が駒形根神社に出かけます。

寒さが厳しくなるころ、家では大根の寒干しをします。

私はおばあちゃんのお手伝いをします。

大根がのき下にズラリと並んだところを

見ると「すごい数だなあ」と感じます。



駒形根神社の境内北側にある石の馬。



「骨寺村莊園米納め」  
昔この土地で穫れた米は、中尊寺大長寿院に納められました。

# 冬の本寺



本寺の冬は一面雪に覆われる。イグネ（屋敷林）は栗駒山から吹き降りる強い風から家を守ります。



「大根の寒干し」  
大根を煮たものを  
ひもに通し、干す。  
冬の冷たい空気に  
さらすと凍り、日中  
は溶けて水分を飛  
ばし、だんだん小さ  
くなっていきます。





地域の住民達は、毎年駒形根神社に  
奉納するしめ縄を協力してつくります。



ぬ



# ACCESS

東北自動車道(一関ICまで)

仙台宮城IC 約1時間(約88km)

盛岡IC 約1時間(約92km) 関IC

一関IC

**JR東北新幹線(一ノ関駅まで)**

東京 2時間6分

仙 台 32分 一ノ関駅

盛 图 43分

仙 台 32分 一ノ関駅

◎一関ICから骨寺村荘園遺跡まで車で約20分

◎一ノ関駅から骨寺村荘園遺跡まで車で約30分

※一ノ関駅からはバスも利用できます(1日数本運行)



**お問い合わせ先**

一関市役所骨寺莊園室 〒021-8501 一関市竹山町7-2  
TEL.0191-21-2111(内線8471) FAX.0191-21-2164  
E-mail honedera@city.ichinoseki.iwate.jp

◎写真協力／一関カメラクラブ ◎編集協力／一関市立本寺小学校



▲一関市携帯HPは  
こちらから